



[エマオ通信]

No.1 (8月15日発行)
 発行人 高良 研一 (会長)
 編集人 稲川 仁 (副会長・事務局長)
 発行者 木村 均 (書記)

日本バプテスト連盟全国壮年会連合 「伝道者養成と教会形成を担う働き」

24/25 年度主題: 「私と教会が元気になるには」 聖句: わたしたちの心は燃えていたではないか (ルカ 24:32)

<メッセージ> 日本バプテスト連盟理事長 吉田 真司 (相模中央教会)

当教会に「エマオへの道」(「The Way to Emmaus (1877)」Robert Zünd) という絵が飾られています。林の中を歩く三人の人、二人はイエス様の弟子たち、そして真ん中には復活されたイエス様が描かれています。しかし弟子たちの心はイエス様を十字架で失ってしまった悲しみ一杯で、一緒に歩いておられる主に気づけないでいました。しかし復活のイエス様ご自身が弟子たちの心を元気づけて下さるのです。そしてそのプロセスには聖書の解き明かしがありました。「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」(ルカ 24:32) とあるとおりです。今年の 8 月に大井バプテスト教会で行われた全国壮年大会開会礼拝にてメッセージ(主題「元の気」)させていただきました。その際述べた内容の一部は次の通りです。「今の世は『元気』をなくしています。教会がそんな世界の中で果たすべき役割とは何か、結論、それは時代が変わっても変わらない。すなわち私たちの命を根底から支えるもの、『元の気』を与えるもの、つまりイエス様の言葉、神様の言葉に徹頭徹尾こだわって、その言葉をこの世に分ち合っていくことだと思えます。なぜなら、それこそ命を生かすものであり、私たちを救うものであるからです。」——共に御言葉によって励ましましょう。そして御言葉を伝える神学校を支え、共に伝道者を養い合ってまいりましょう。



<証①> 中部地方連合壮年会の協力伝道 福井教会への支援

ながや
 長谷 幸雄(各務原教会)

わたしたちの連合壮年会は、全国 13 連合のなかでも 13 教会と小規模の地方連合であります。ここで私見を含めて福井教会を共有したいと思えます。1960 年会堂と牧師館建築、1967 年教会組織と連盟加盟をしました。中部地方の北陸三県はそれぞれ 1 教会があり現在に至っています。筆者は隣県に居住しており年に 1 回程度訪れて交わりを持っておりました。隣といっても片道 180 km、金沢、富山間はそれぞれ約 50 km あります。日本の高齢化と、コロナ後遺症で教会形成の困難さが増していますが、主なる神様と先人が建て上げた教会を、大自然の豊かさのなかにあることにむしろ誇りたいと考えます。今回の記事のきっかけは、福井教会の全国地域協働プロジェクトが採択され今年度中に新会堂が実現することです。旧会堂取り壊し後、年間に 2 回程度教会の樹木や除草作業を連合壮年会でお手伝いしてきました。今年度はプロジェクトの仕上げとして、参加者の枠にこだわらず近隣教会と協力して汗をかきながら協力伝道を語りしたいと思います。小さい教会や小規模地方連合でも小技を効かせながら、楽しい連合壮年会を目指したいと思います。



長谷幸雄 (近影)



教会と隣地境界の除草作業



牧師館にある高木の剪定

<証②> 澤田 猛 横浜JOY教会 伝道師（兼職）

私がバプテスマを受けたのは34歳の時ですが、長男の出産の時のトラブルで『自分の力の限界』を痛感させられ、神さまを第一とする人生に導かれました。その後、主の導きにより横浜JOYバプテスト教会が伝道所としてスタートした時から私たち家族もメンバーとして加えていただき、多くの恵みと祝福を体験させていただきました。また、二人の息子もバプテスマを受けてクリスチャンファミリーとして歩んでおりましたが、12年前に妻が乳癌のため天に召されました。その時に教会員の方々の祈りと支援と御言葉に支えられ、『万事を益としてくださる神に全てを委ねて歩いて行こう』という希望と共に献身の想いも私に与えられ、東京バプテスト神学校に入学しました。建設会社の設計部で働きながらの学びでしたので時間はかかりましたが、今年の3月に卒業し4月からは横浜JOY教会の伝道師に招聘されました。卒業論文では『チーム牧会』をテーマに事例調査をし、様々な学びと気づきを与えられましたので、横浜JOY教会でもその実践ができればと祈っていました。兼職なので時間の制約はありますが、山中臨在牧師との『牧会チーム』の働きが4月から始まり、教会に集えない教会員を訪問したり、地域に出て行って交わりをする働きや他教会との協力伝道の働きにも参与したいと願っています。これからも『万事を益としてくださる主』をひとりでも多くの方にお伝えできるよう主に祈りつつ歩いて行きたいと思っております。



<今後の歩みと働きのための祈り>

- 「私と教会が元気になるには」の年間主題のもとに、この「エマオ通信」により、日々元気に歩んでおられる多くの方々の主にある証を分かち合うことで、自分と教会が元気になるキッカケとなり、聖霊の導きのもとに、教会が元気になるための働きを担うことができるように。
- 信徒ひとり一人が、献身者となり、神学校での（オンライン）受講等により良き学びを得て、日々の伝道に励み、教会形成の働きを担うことができるように。
- 各神学校（西南大、東京バプ・九州バプ）で学ぶ献身者が更に起こされ、神学生らが将来の良き牧会者となる為に、豊かな良き学びができるように。
- 神学校献金の目標（24年度総額2500万円）達成の為に各教会で豊かな取組みができるように。
- 来年度より神学校献金が、神学生奨学金のみならず、東京バプ・九州バプの両神学校への運営資金の支援（年間350万円）として豊かに用いられるように。
- 8月24日（土）第59回全国壮年大会 西九州大会（オンライン開催）で、「地方連合における協力伝道」について、多くの参加者により良き学びができるように。 8月24日（土）9:30-16:30。主題：「わたしたちの心は燃えていたではないか～臨在の主に、心燃やされて～」（ルカ24:32）
- 教会形成を担う働きとして、各連合や壮年会を通じて伝道隊を含めた協力伝道の業を具体的に推進できるように。
- 連盟から委託されている奨学金制度の運営を実際的に担う全国壮年会連合奨学金委員会（北村慎二委員長）の働きのために。
- 8月23日（金）文書による総会議案のスムーズな開票作業のために。
- 10月19日（土）10:30-12:00 全国壮年会連合オンライン研修会
「私と教会が元気になるには」 伊藤光雄先生（姪浜教会協力牧師）
- 各地方連合壮年会長と神学校献金推進委員の働きとその歩みのために。
- 全国壮年会連合の働きのために4月に就任した新役員、高良研一会長（恵泉）、稲川仁副会長・事務局局長（宝塚）、木村均書記（大井）、高井透会計（高崎）、堤秀幸監査（福岡西部）、大城戸一彦監査（所沢）、そして、飯野實事務局員（宮原）の主にある働きのために。

<お願い>

- それぞれのところで主にあって頑張っておられる方々をご紹介ください。このエマオ通信でその証を紹介していきます。
- 第1回壮年大会（1965年目白ヶ丘教会他）開催以来の初期資料をお持ちの方をご紹介下さい。